

令和7年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	43	学校名	焼津中央高等学校	校長名	遠山 一郎
------	----	-----	----------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	<p>・基礎学力の確実な定着を図るとともに、資質・能力の育成を念頭に置いた授業改善に取り組み、進路実現を可能とする学力を育成する。</p>	<p>・基礎学力が定着する。 ・学習支援サービスの有効活用により、生徒が自身の学習状況の振り返りと改善ができ、教員は指導に生かす。 ・指導と評価の一体化を意識して授業改善に取り組んだ教員70%。</p>	<p>・課題や小テストによって基礎学力が定着したと答えた教員94.1%、生徒81.6%。  ・取り組んだ教員91.2%</p>	A	<p>・生徒が計画的に準備、取り組みができるように学年教務中心に調整していきたい。 （R6年度と比べると、教員の達成状況は上がったが生徒の達成状況は下がった。各教科で内容、回数等再考する。）</p>
		<p>・学びの基礎診断、模擬試験等の結果の共有と分析を生かし、年間4回の面談実施により具体的指導が徹底される。</p>	<p>・模試などの結果を分析・共有することで、面談や授業において、生徒の状況に応じたより具体的で有効な指導を実現できたと答えた教員85.3%、生徒91.4%。</p>		<p>・面談を通して生徒は具体的にやるべきことがわかったと実感している。設定されている面接週間を軸に年間4回の面談を計画的に実施し、模試等の結果をもとに丁寧な指導を継続していく。</p>
		<p>・授業で1人1台端末の活用を研究した教員100%、実践した教員80%。 1人1台端末を日常的に活用したと答える生徒80%。</p>	<p>・研究した教員94.1%、実践した教員91.2% 活用した生徒93.4%</p>		<p>・1人1台端末はこれから更に活用されていくものなので、教員も授業で積極的に活用できるように研究を継続していく。</p>

様式第3号

イ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校則及び社会規範を遵守する意識を育てる。</li> <li>・基本的生活習慣の確立と心身の健康管理を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場に応じた挨拶と対話ができる生徒100%。</li> <li>・不注意遅刻者が年間20人以内、交通事故10件以内。</li> <li>・一時不停止・並進違反が20件以内。</li> <li>・服装の乱れ等で再指導を受ける生徒0%。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校外で挨拶は慣例化している。時と場に応じた挨拶と対話を心掛けていると答えた生徒96.2%</li> <li>・不注意遅刻者39人(12月末)交通事故18件</li> <li>・一時停止違反27、並進違反23</li> <li>・冬期登下校時の服装の乱れが一部あり。旧制服とセーターの併用における規定見直しを図った。</li> </ul>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時差登校集計方法を生徒提案によりオンライン化したことにより徹底化が図れた。</li> <li>・各遅刻者増加傾向を食い止めるべく朝活動の有用性を浸透させていく。</li> <li>・交通事故 R4:15 R5:17 R6:11件から増加した。一時停止順守、車の出入り注意、他の自転車や歩行者への配慮を促す。</li> <li>・黄色切符の数は大幅に減少した。R8より青切符に対応すべく、ルール意識を日頃より高める。</li> <li>・服装について校則見直しを生徒会に投げかけたが回答なし。ボトムアップによる校則検討に切り替えていく。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・心臓病、貧血等の健康診断有所見者受診率100%。</li> <li>・緊急時には職員がマニュアルにより適切な対応ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有所見者に声掛けを行い、受診率は100%であった。</li> <li>・年度当初に、既往症のある生徒を周知した。エピペンおよび熱中症対策セミナーを行い、全職員が対応できるようにした。</li> </ul>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康診断有所見者の受診率は常に100%を目指し、医師の診断や所見に従い、適切に対応していく。</li> <li>・緊急時の職員の対応の仕方や連絡体制の確認等は、年度当初および行事前に職員研修会等で、例年通り必ず行い、徹底する。</li> <li>・配慮を要する生徒への対応についての知識と共通理解を持てるように、次年度も年度当初に職員会議等で情報共有する。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切な助言により、生徒との信頼関係が深まる。</li> <li>・組織による対応が可能となり、該当生徒及び担任等への支援が充実する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・困難を抱えた生徒・保護者にスクールカウンセラーを紹介し、担任・学年部と対応を検討した。(のべ69人程度と面談実施。)</li> </ul>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・HR活動や思春期セミナーを活用し、人間関係の構築や心の健康に関する研修や講演を充実させる。</li> <li>・今年度は、スクールカウンセラー及び本校相談担当との面談が昨年度とほぼ同じ70人程度だった。スクールカウンセラーや外部専門機関の助言を受けながら、職員間で連携して生徒や保護者の対応にあたる。</li> </ul>

様式第3号

ウ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校生徒が生徒会活動に参画し活性化する。</li> <li>・学校行事や部活動により、主体性を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全生徒が委員会等の活動や地域行事等に参加し、自己有用感が高まった生徒 80%以上。</li> <li>・全生徒の技術や意欲が向上し、自己肯定感が高まった生徒 80%以上。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化祭、体育祭では生徒主体の運営力が高まってきた。</li> <li>・部活動では2,3年生は任意となっているがほぼ継続している。</li> <li>・自己有用感が高まった生徒 93.4%、自己肯定感が高まった生徒 93.4%</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化祭では企画に挑戦する執行部の主体的な姿が見られた。体育祭での体育委員による事前準備がなされた。</li> <li>・体育祭での企画力を高めるべく、前年度より生徒会企画として準備をしていく。</li> <li>・部活動での活躍がさらに発展していける学校全体の雰囲気作りをしていく。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「行きたい学校づくり」推進事業(地域大学等との連続性)</li> <li>・探究活動の活性化</li> <li>・中高大連携事業の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「行きたい学校づくり」推進事業に参加した生徒の内、教職に魅力を感じた生徒 60%以上</li> <li>・探究活動を通じて自分の課題解決力が高まったと答える生徒 80%以上。リアルアクションを実行した生徒 100%。</li> <li>・探究活動を通して、SDGs や大学の研究に関して学び、地域や社会の問題に関心を高め、教職を含む進路希望決定や志望理由書の作成に生かすことができる。</li> <li>・中高大連携授業を通して、教職に対して、仕事としての興味をもつようになった生徒 70%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「志 project」参加者 32 人中 100%</li> <li>・課題解決力が高まったと答える生徒 1年生 72.0%、2年生 82.5%、3年生 84.5%</li> <li>・中高大連携授業</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な探究の時間に関しては、昨年度と同様に、学年部の協力の下、探究活動につなげる取組を行っている。</li> <li>・総合的な探究の時間における探究活動は、2月現在進行中のため、今年度の活動の総括は、2月末に実施する。リアルアクションについては、3月に実施する予定。</li> <li>・令和7年度の中高大連携授業は、これまでの理科に加え、公民と英語でも実施した。公民では、中学生・大学生とともに焼津市議会を訪問し、焼津市の活性化に向けて意見交換を行った。また英語では、静岡大学の</li> </ul>

	<p>・教科学習や探究学習、研修等を通じてグローバルな視点と思考、英語4技能対応力を育てる。</p>	<p>・実験・実習に参加した生徒の満足度 80%以上。          ・授業に参加した中学生の満足度70%以上。          ・中学生に教えたことで実験・実習の成果が生かされたと答える生徒80%以上。          ・研修後の生徒アンケートの満足度 90%以上。          ・研修に参加して、英語活用能力が向上したと答える生徒80%以上。</p>	<p>・実験実習に参加した生徒の満足度 97.6%          ・授業に参加した中学生の満足度 100%。          ・学ぶことへの興味関心が向上したと回答した生徒100%。          British Hills 参加者満足度 100%。          ・英語学習への意欲が高まった生徒 98%。</p>	<p>留学生とともに、多文化共生について話し合い、参加した生徒全員が、意識が変化したと回答した。参加した中学生の満足度は、全6回を通じて 100%だった。本校生徒の満足度も高く、学力面だけではなく、中学生や大学生との交流に刺激を受けていた。          ・8月に実施した British Hills 語学研修には、63人が参加。英語のみで3日間過ごすプログラムは、英語力そのものよりも、英語使用への心理的障壁を下げる効果が非常に高い。英語への興味と自信を育てる“体験型研修”として、参加した生徒たちから高い評価を得られた。</p>
<p>エ</p>	<p>・スパイラルアッププログラムによる個々の能力・適性の伸長と、主体的・探究的な姿勢を育成し、生徒一人ひとりの進路実現を図る。          ・教育改革、新大学入学試験等への対応を深化・充実させる。          ・教員の進路指導力の向上。</p>	<p>・共通テスト受験者のうち6教科8科目受験者80%以上、かつ国公立大学受験者を学年80%以上。          ・国公立大合格数150人以上。          ・難関大合格数(旧帝大・ブロック大等)20人以上。          ・教員の教育改革、大学入学試験等への理解が深まり、進路指導に生かすことができる。          ・担任研修会や検討会等の研修機会に参加する教員100%。          ・希望者対象の各種研修会、研究会に10人以上参加する。</p>	<p>・共通テスト6教科8科目受験者238人／総受験者数269人=88.5%          ・合格者数150人          ・難関大合格数国公立13人 私立60人          ・模試の分析を行い、授業改善や課題の設定に活かした。また、各学年において分析結果に基づき、学習習慣の見直しを意識させる取組も行った。          ・希望者対象各種研修会参加者延べ12人</p>	<p>B          ・国公立大学の最終的な合格者数は未定。後期試験まで粘り強く親身な指導を続けたい。          ・静岡大学の問題分析を行い指導に活かした。来年度も引き続き県内国公立大学の入試問題を分析し、指導に活かしたい。          ・大学模擬授業と静岡大学全学部説明会は成果が大きく、今後も継続する。県内の国公立大学を志望する3年生は70名を超えている。          ・大幅に増加した推薦入試や総合型入試をはじめ、小論文や面接指導に関して、全職員で配分して指導に当たった。          ・夏季休業中の生成AI等ICT教育の研修会に参加した教員が、授業で活用を図っており、他の教員の刺激となっている。</p>

様式第3号

オ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書習慣の定着と読書量の増加及び読書の質の改善に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書週間等の活動を通して読書への関心を高め、年間2冊以上読む生徒が全体70%以上、年間3冊以上読む生徒が全体50%以上になる。</li> <li>・ライブラリー(図書委員作成の生徒用広報誌)を年10回以上、新刊図書案内を月1回発行し、貸出数が増加する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝の読書週間を7月と10月に行った。</li> <li>・年に2冊以上本を読んでいる生徒83.9%、3冊以上52.7%(R6比+7%)、</li> <li>・ライブラリーと新刊図書案内等を月1回発行し、校内放送で本を紹介した。</li> <li>・貸出数平均3.5冊(R6+0.5冊)</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書週間アンケート結果81.5%が朝読書に肯定的だった。</li> <li>・ビブリオバトル県大会に3年生2名が出場し、決勝進出を果たし、うち1名が準チャンプに選ばれた。校内予選のレベルも上がっている。校内大会のやり方を再考し、学年や全校での発表ができるようにしたい。</li> <li>・新校舎でも出張図書コーナー開設することができ、気軽に本を手にとれる環境づくりを継続することができた。月に一回校内放送で広報活動を行ったが、昼食中のためあまり聞いてもらえなかった。図書委員長を中心に対策を考えていく。</li> </ul>
カ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主権者・生活者としての自覚を促し、政治や選挙・消費に関する知識を身に付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・政治的教養が高まり、政治や選挙への関心が高まったと感じる生徒が80%以上。</li> <li>・主権者・生活者としての自覚が高まった生徒60%以上。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・政治的教養が高まり政治や選挙への関心が高まった生徒77.2%。</li> <li>・主権者・生活者としての自覚が高まった生徒74.2%。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共(2年)では「選挙の意義と課題」や「地方自治と住民の福祉」、政治経済(3年)では「選挙と政治意識」、倫理(3年)では「社会契約論と啓蒙思想」等の単元の中で選挙の意味や役割を伝え、主権者意識を高めた。</li> <li>・公共では「様々な権利と法」、政治経済では「消費者問題」等の単元の中で消費者意識の向上を図った。</li> <li>・今後も引き続き主権者・消費者意識の向上に取り組みたい。</li> </ul>
キ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報活動を充実させ、積極的な情報発信をするとともに、地域から信頼される学校としての体制作りをする。</li> <li>・地域との交流を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校ホームページの担当者による年3回以上の更新と年間閲覧者数の増加。</li> <li>・新校舎関係の情報提供週1回</li> <li>・学校説明会に参加した中学生の満足度80%以上。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校ホームページ更新215回(R7.4/1～R8.3/30)</li> <li>・学校HPに新校舎情報を月に数回のペースで発信した。</li> <li>・中学生一日体験入学参加者1,335人、満足度98.5%。</li> <li>・学校公開参加申込者1440人満足度91.1%。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校のホームページやスタディサプリの連絡は軌道に乗った。今後他校のように公式インスタグラムを開始する(運用のルール検討等)必要性もある。</li> <li>・新校舎建設工事の写真撮影は、現場の立ち入りに制約があり、目標どおりのペースで公開するのは難しかった。</li> <li>・令和8年度の体験入学は焼津市民文化センターを利用できないため、実施内容の工夫等を検討したい。</li> <li>・学校公開は、第3回学校運営協議会の意見を受け、授業を見てもらう機会として、より良い</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラウドサービスによる情報提供に満足していると答える保護者90%以上。</li> <li>・各学年1回以上の保護者会を実施する。</li> <li>・電話、窓口対応に対するクレーム0件。</li> <li>・地域との交流活動が前年度より30%程度増加する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・92.3%</li> <li>・保護者会 1年生 4/23, 10/10 2年生 9/22, 2/9 3年生 5/14</li> <li>・電話、窓口対応に対するクレーム 0件</li> <li>・大学及び産業界との連携のうち、地域企業等との連携 R6:33件 →R7:45件。</li> </ul>	<p>ものにしていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラウドサービス「スタディサプリ」を利用し、保護者向け文書等を配信した。緊急連絡もスタディサプリに軸を移し、利用している。現在同様の機能で利用しているサービス「きずなネット」は、今年度で利用を中止する予定である。</li> <li>・接遇の良否が学校の評判に影響を及ぼすことを念頭に、適切な窓口対応を心掛け、クレームに発展する事案は無かった。</li> <li>・総合的な探究の時間におけるリアルアクションを中心に、外部との連携活動回数が増加した。今後も積極的に交流を進めたい。</li> </ul>
ク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危機管理能力を高めるとともに地域の安全と防災に貢献する。</li> <li>・コンプライアンス遵守の意識の確実な向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害発生の際、教職員及び生徒が速やかに的確な減災対応をとることができ、負傷者を0名とする。</li> <li>・地域防災訓練への年1回以上の参加率90%以上。</li> <li>・声を掛け合い、チーム力向上を意識する教職員100%。</li> <li>・不祥事の発生0件。</li> <li>・職員の交通事故0件。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新校舎での防災訓練を実施し、速やかに的確な対応をすることができた。防災意識が高まった。</li> <li>・全体の14.2%が年一回以上防災訓練に参加した。</li> <li>・チーム力向上を意識した職員91.1%</li> <li>・不祥事0件</li> <li>・職員の交通事故1件</li> </ul>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の防災訓練や避難訓練などで、積極的に防災委員を動かし、意識を高く持たせ活性化に努めた。今後も防災委員会の主体的な活動を促すよう指導していきたい。また、今起こってもおかしくない状況にある大地震への備えを考えさせたい。</li> <li>・生徒が自身の地域における役割を確認する取組を考えたい。</li> <li>・職員会議議題や研修に組み込み、教職員の防災意識の向上を推進する。</li> <li>・「全く意識していない」と回答した職員は1人。職員室内の雰囲気は良い。</li> <li>・コンプライアンス研修で引き続き意識向上を図りたい。</li> <li>・引き続き注意喚起を図る、</li> </ul>

様式第3号

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員、生徒を支援する校内研修等の充実と改善を研究、実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研修の満足度 80%以上</li> <li>・特別支援教育に関する意識や知識が高まった教員 80%。</li> <li>・授業評価アンケートの結果・研修会を授業改善に生かすことができた教員 80%以上。</li> <li>・教員相互の授業参観を年 2 回以上行った教員 80%以上。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研修満足度 91.1%</li> <li>・特別支援教育に関する意識や知識が高まった教員 91.2%</li> <li>・授業評価アンケートの結果研修会を授業改善に生かすことができた教員 93.7%</li> <li>・教員相互の授業参観 2 回以上行った教員 90.6%</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワーク形式での研修や教科や分掌、学年が異なるグループでの話し合いは、新たな気づきをもたらし、職員の共通理解を促した。</li> <li>・各学期に職員会議で「配慮を要する生徒」について情報を共有した。それと並行して、担任・学年部と連携して対応策を協議した。</li> <li>・授業評価アンケートを実施し、授業改善に繋がった職員が増加した。</li> <li>・グループでの相互参観にすることで、教員同士の授業参観を促すことができた。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働き方改革に向けて業務改善や円滑化に係る具体的措置の検討と実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の削減又は改善について検討した分掌学年 100%。</li> <li>・完全退勤時刻 (20:00) と完全退勤時刻遵守日 (水・金曜日) を意識して働いた教員 80%以上。</li> <li>・時間外在校等時間が月 80 時間以上の教員が延べ 60 人以下になる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての分掌において、業務の削減や改善を念頭に業務を行っている。</li> <li>・完全退勤時刻等を意識して働いた教員 58.8%</li> <li>・時間外在校等時間が月 80 時間以上の教員 3 月末までで 69 人</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間外在校理由は、部活動によるものが多い。顧問と副顧問の考え方や割振りを工夫するなど、引き続き特定の教員に業務が集中しないように校内人事を進めたい。</li> <li>・令和 8 年度は、定時退庁日の個別設定や完全退庁時刻の前倒しも導入を検討したい。</li> </ul>
ケ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安心・安全な施設・設備および生徒の教育環境整備の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室の照度、CO<sub>2</sub>、騒音の検査を年に 2 回実施。</li> <li>・年間のゴミの排出量 900kg 以下。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7 月と 11 月に左記の 3 検査を実施済み。</li> <li>・12 月末現在で 1,059kg。私物ゴミ持ち帰りの徹底、教室内ゴミ箱撤去継続により、減量化を図るこ</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に照度、CO<sub>2</sub>、騒音に関して問題はなかった。</li> <li>・昨年度は 12 月末でゴミの排出量は 708kg であり増加しているが、これは引っ越しの影響と思われる。来年度も引き続きゴミの排出量の減少に努めていく。</li> <li>・部室等に、ペットボトル等が放置されているときがあるので</li> </ul>

様式第3号

			とができた。		責任持って処理するように呼び掛けていく。
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・新校舎建設工 事の工期遵守。</li>   <li>・新校舎への移 転完了。</li> <li>・施設等の不具 合による事故 0件。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新校舎建設工 事は、施工事情 による2か月 程度の工期延 長を経て完成 した。</li> <li>・仮設校舎から 新校舎への移 転は円滑に行 えた。</li> </ul>	B	新校舎移転当初は、事前のイメ ージと実態に一定のギャップが あったが、運用上の工夫や部分 改修により対応した。年度内の 対応が難しい箇所については、 次年度に引き継ぐ。